

授業科目名	成人看護学実習 I	担当教員	助教 佐藤亜美 他		
開講年次及び学期	3年次後期	必修・選択の別	必修		
開講形態	実習	時間数	135	単位数	3

授業の目的（概要）

生体侵襲に伴う、生命の危機状態や周手術期にある、成人期の患者を中心に急性期の患者を受け持ち、状況の変化に応じた回復及び適応への援助が実施できる能力の習得を目指す。また、クリティカルケアの場における生命維持のための看護のあり方、および患者の人権擁護と家族に対する支援を学ぶ。

学修成果（到達目標）

1. 急性期の患者の全体像をとらえ、経過に応じた根拠に基づく個別性のある看護展開ができる。
2. 手術室・クリティカルケア領域における看護について、看護の実際を理解し、必要な援助を考えることができる。
3. 急性期の患者・家族に必要な倫理的配慮を行うことができる。
4. 急性期における医療チームでの、看護職の役割を理解し、チームの一員として多職種と協働・連携を図ることができる。
5. 急性期にある患者への実習を通して、自己の学習課題を明確にし、主体的に取り組むことができる。

キーワード

成人期 急性期 周手術期 手術侵襲 クリティカルケア 回復過程

授業の進め方

周手術期を含む、急性期にある患者を受け持ち、看護過程に沿って看護を展開する。
また、手術室やICU・HCU・MCUでの実習を行い、クリティカルケアの場における看護の実際を学ぶ。

成績評価の方法（合否基準）

実習到達目標の到達度と、次の内容により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

1. 事前学習の取り組み状況
2. 看護過程展開状況
3. 実習期間中に提出される実習記録の内容
4. 実習への取り組み姿勢

（誠実性、向上心、学習者としての主体的な学びの態度、援助者としての自己の客観視、人権への配慮、安全な看護実践に対する責任、自己の心身の健康保持）

5. カンファレンスへの参加状況
6. 出席状況

教科書・参考書・視聴覚・その他の教材

別途、「成人看護学実習 I」の手引きを示す。

オフィスアワー

メールで時間を調整し対応します。
佐藤亜美：E-mail h31am4o3@med.shimane-u.ac.jp

モデル・コア・カリキュラムとの関連

D-4-2)急性期にある人々に対する看護実践

ねらい：小児、成人、老年といった各年代に応じた急性期や重症な状態、周手術期にある人の特徴を理解し、生命維持、身体的リスクの低減と症状緩和、安全と安楽の保持等のための看護実践を学ぶ。

学修目標：

- ①急性期や重症にある人の身体的・心理的・社会的特徴を説明できる。
- ②急性期や重症な状態にある人をアセスメントできる。
- ③急性期や重症な状態にある人に対する優先順位を踏まえた看護を説明できる。
- ④主な検査・処置等を受ける人の検査・処置に対する理解と意思決定を支える看護を実践できる。
- ⑤手術を受ける人をアセスメントできる。
- ⑥手術を受ける人の手術療法への理解と意思決定を支える看護を実践できる。
- ⑦疾患や治療に応じた観察項目を理解し、異常の早期発見と必要な看護を実践できる。
- ⑧術後合併症を予防するための看護を説明できる。
- ⑨認知機能の低下や精神疾患等の特徴を持つ人の急性期治療に対する反応を理解し、安全・安楽を守る看護を説明できる。
- ⑩急性期や重症な状態にある人や家族の心理についてアセスメントし、不安の緩和を図ることができる。
- ⑪回復過程及び退院を見通した看護を説明できる。

準備学修に必要な学修の時間

各講義の中で指示します。

<p>授業計画</p>
<p>1. 実習方法</p> <p>1) 実習期間:3週間</p> <p>2) 実習時間:8:30～16:30</p>
<p>2. 実習施設・場所</p> <p>1) 臨床 島根大学医学部附属病院 B病棟6階、B病棟7階、手術部、ICU、HCU、C病棟7階(MCU)</p> <p>2) 学内 看護学科棟</p>
<p>3. 実習形態</p> <p>1) 学内で、手術直後の患者の観察と看護について演習を行い、基本的技術の確認を行う。</p> <p>2) 周手術期の看護上の問題を明確にし必要な看護を行う目的で、手術前および手術中の看護についてオリエンテーションを受ける。</p> <p>3) クリティカルケアの場(ICU・HCU)において、生命の危機状態にある患者への看護について、基礎的知識と援助技術を身につけるため、看護の実際についてオリエンテーションを受け、見学実習を行う。</p> <p>4) 周手術期を含む急性期の患者を原則1名受け持ち、看護過程に沿って実習を行う。</p> <p>5) 受け持ち患者の生体侵襲と回復過程、退院後の生活を身体的・心理的・社会的に捉え、患者の状態に合わせた急性期看護の実践から学ぶ。</p> <p>6) 受け持ち患者は治療過程および病状により、病棟から手術部、ICU、MCUなど病棟を移動する。学生も受け持ち患者とともに実習病棟を移動する。</p> <p>7) 実習におけるグループ内での学びの共有や問題解決、自己の課題を明らかにするためカンファレンスを行う。カンファレンスは学生により運営する。</p>
<p>備考</p> <p>実習開始前に、別途オリエンテーションを行う。 詳細は「臨地実習の手引き(共通部分)」および「成人看護学実習Ⅰの手引き」を参照。</p>